医薬品

T&Tオルファクトメーター
(嗅覚測定用基準臭)

バラエティに富んだ
ニオイ

**花、あまい、
腐敗臭、果実臭、
糞臭**

5種類のニオイ

7~8段階濃度

**検知域値
認知域値**

域値判定が可能

主に
耳鼻咽喉科領域

**嗅覚障害の程度
治療効果の判定**

基準嗅力検査

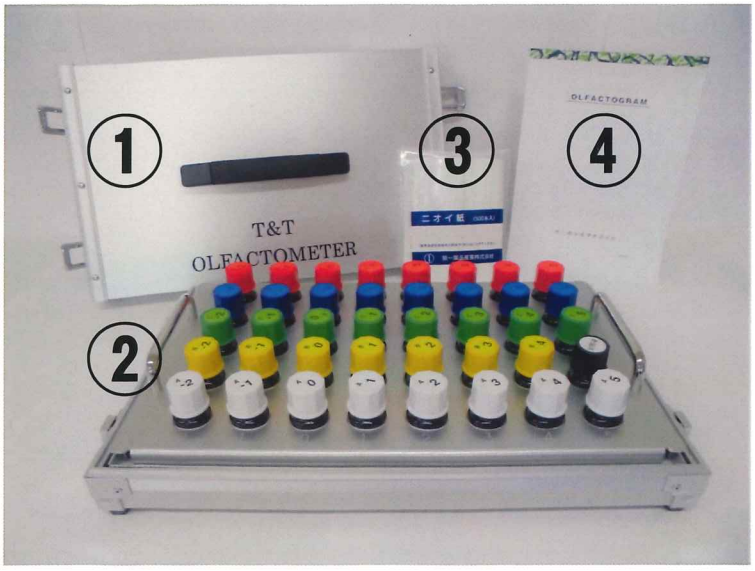
T&T　OLFACTOMETER

① 第一薬品産業株式会社

〒103-0026　東京都中央区日本橋兜町15-12　兜町MOCビル
TEL 03(3666)6773　FAX 03(6206)2662
https://j-ichiyaku.com/

効能・効果

基準嗅覚検査（D253-1）：嗅覚感度の判定に用いる。



＜ T&Tオルファクトメーター (スターターキット一式) ＞

＜ 別売り（消耗品） ＞

T&Tオルファクトメーターは、わが国で唯一、基準嗅覚検査として適用された嗅覚検査キットです。
体内診断薬として診療報酬点数が定められ、嗅覚障害の程度や治療効果の判定、労災の補償判定のため
耳鼻咽喉科領域で広く使用されています。このキットはバラエティに富んだ5種類のニオイで、各ニオイが
7～8段階の濃度で構成されています。また、Bレーンについては、濃度の関係からB5濃度を作成できないため
代わりに無臭液である対照液が含まれています。

製品内容

「T&Tオルファクトメーター」（統一商品コード：108161009）

・セット内容：スターターキット一式

① 専用格納容器
② 嗅覚測定用基準臭（40本 各 5mL）
③ ニオイ紙（500本入）
④ オルファクトグラム1冊（50枚）

・別売り（消耗品）　　統一商品コード

② 「嗅覚測定用基準臭（40本 各 5mL）」：108162006（有効期間1年）
③ 「ニオイ紙（500本入）」：108963009
④ 「オルファクトグラム1冊（50枚）」：108964006
⑤ 「ニオイ紙用ごみ袋（120枚入）」：108965003

＊T&Tオルファクトメーターは、1971年に旧文部省、厚生省の援助を受け、群馬大学・高木貞敬元教授、金沢大学・豊田文一元教授らの研究班によって開発され、高砂香料工業株式会社より承継し、弊社で製造・販売しています。

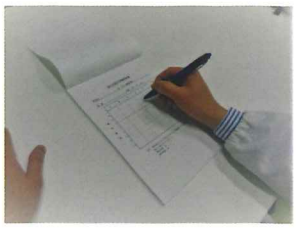
検査手順

1. 検査者はニオイ紙の一端を1cm程基準臭に浸してから、被験者に渡す。
2. ニオイを嗅ぐ順番は、Aから始めてB、C、D、Eの順序にする。 ※（A -2から
   ニオイを嗅ぎ、ニオイの表現ができるまで段階的に濃度を上昇させ、ニオイの
   表現ができたら、次にB -2からニオイを嗅ぎ、以下、同様にEのニオイまで行う）
3. どこで初めてニオイを感じるかを被験者に言わせて、その基準臭の番号を
   オルファクトグラムに記載する。これが検知域値となる。
4. 次に、更に強いニオイを嗅がせて、それが何のニオイか、又はどんな感じの
   ニオイか判定できるまで、一段一段強くしていく。
   被験者のニオイの表現が定められた表現（またはそれに近い表現）である場合、
   その基準臭の番号をオルファクトグラムに記載する。これが認知域値となる。

※ ニオイを嗅ぐ順番は、嗅覚障害診療ガイドライン2017版　日本鼻科学会発行を参照とした。その他に、濃度ごとの提示方法がある。

1cm程度ニオイ紙に浸す

ニオイを嗅いでもらう



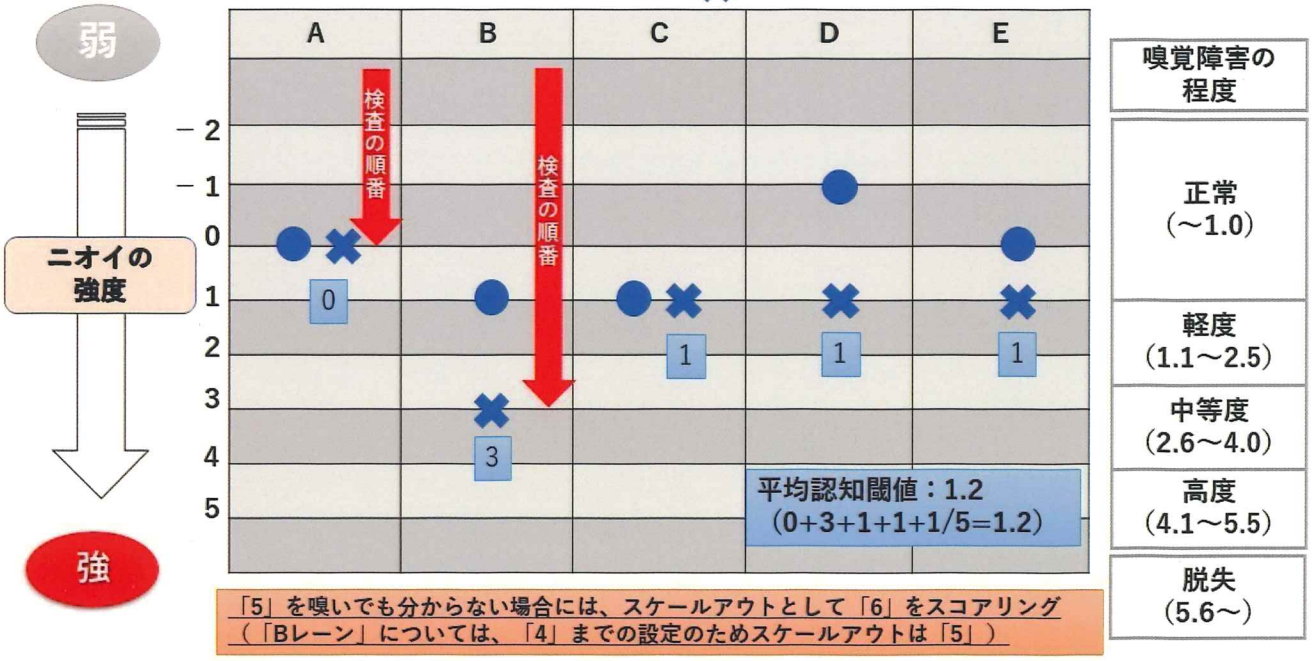
結果をオルファクトグラムに記載

検査結果記入例

（付属のオルファクトグラムを使用）　**ニオイの成分（5種類）**

● **検知域値：ニオイを感じたところ**

✖ **認知域値：どんなにおいか、わかったところ**



判定基準

オルファクトグラムに検知域値、認知域値を記載後、上の様に計算して判定を行います。
臨床的には、一般に嗅力損失を正常、軽度、中等度、高度、脱失と段階的に表現します。
平均嗅力損失はA～Eまでの5種の嗅覚測定用基準臭の認知域値の合計を5で割算した値を用いて判定します。
尚、最高濃度において認知不能の場合は、それぞれの最高濃度に1を加えたものを域値として計算します。（即ち、5が認知できない場合は6、Bのみは4が認知できない場合は5として計算します）

＜ 脱臭装置SD-1 ＞

【別売品】

ダクトレス脱臭装置SD-1（販売元：永島医科器械株式会社）

検査時、周囲に漏れるニオイを軽減します。
本体は、完全な内蔵式装置の為設置工事は不要であり、
移動も簡単に行える。嗅覚検査用T&Tオルファクトメーターは
この脱臭装置内において使用する。

注意事項

※ 検査に際しては、ニオイが部屋に拡散する為、排気ダクトのある部屋、あるいは脱臭装置などの換気対策が必要となります。

1．ニオイは必ず濃度の薄いものから順次濃度の濃いものへと嗅がせること。
2．一度基準臭に浸したニオイ紙は再使用しないこと。
3．検査室の環境を下記のとおり保つこと。
　・室内自体にニオイがないこと。
　・室温は20℃～25℃とする。
　・部屋の換気を十分に行うこと。
4．ニオイ紙の使い方、捨て方
　一度基準臭に浸したニオイ紙を再使用しないこと。
　検査者は被験者がニオイ紙を1本嗅ぐごとに直ちに捨てること。
　使用済みのニオイ紙は検査室の空気を汚すので、ニオイ紙用ごみ袋やポリ袋に入れて、
　袋の口を縛って、フタのある汚物缶に捨ててください。

取り扱い上の注意

貯法：遮光、冷暗所に保存
有効期間：１年
廃棄方法について
嗅覚測定用基準臭には、環境法令によって下水放流が禁止とされている物質が含まれているため、
廃棄の際は、各都道府県の許可を受けた廃棄物処理業者に委託の上、廃棄を行うこと。

主要文献

1) 真田　聖子ほか：オルファクトグラムを用いた平均嗅力損失の臨床的意義
日本鼻副鼻腔学会誌 1974；13：48-49
2) 真田　聖子ほか：基準臭の臨床的応用-オルファクトグラムによる嗅力像の判定-
日本鼻副鼻腔学会誌 1975；14：79-80
3) 浅賀　英世ほか：嗅覚認知域値の意義について
日本鼻副鼻腔学会誌 1975；14：80-81
4) 高木　貞敬：嗅覚測定の実際、嗅覚障害ーその測定と治療　(豊田文一・北村武・高木貞敬編)
医学書院；1978. p.1-10
5) 浅賀　英世：嗅覚障害の診断と治療
日本医事新報 1984；3159：43-47
6) 浅賀　英世：基準嗅覚検査
日本味と匂学会誌 1994；1(1)：35-38
7) 三輪　高喜：嗅覚障害の診断
日本味と匂学会誌 2003；10(1)：59-66
8) 内田　淳：基準嗅覚検査(T&Tオルファクトメトリー)、静脈性嗅覚検査(アリナミンテスト)の有用性と信頼度
日本鼻科学会誌 2006；45(1)：75-78
9) 三輪　高喜：嗅覚検査：耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2010；82(5)：155-160
10) 三輪　高喜：嗅覚検査の現状と今後の展望：耳鼻咽喉科展望 2011；54(2)：71-79
11）Miwa T, Ikeda K, Ishibashi T, Kobayashi M, Kondo K, Matsuwaki Y, et al.
Clinical practice guidelines for the management of olfactory dysfunction
– Secondary publication. Auris Nasus Larynx. 2019 ; 46 : 653-662

2022年5月改訂